

識名園庭園の実測調査

建造物研究室

識名園は沖縄県那覇市真地にある。当園は琉球王尚穆時代（1783）に作庭に着手し、尚温王時代（1800）に完成したと伝えられる琉球庭園を代表する庭園である。戦前（1937）の吉永義信氏の調査によると、心字型の池が園の中央を占め、その中に大小2個の中島と島に架かる石橋、亭がある。池の西側に水源となる育徳・甘醴の2つの湧泉がある。園の北に主要建物があり、室内に園に関する6種の木額が掲げられている。その他園路、勧耕台（高台）があり、総計12,208坪の面積を持つと記されているが、現在、戦災により、建物、中島、橋などが破壊され、荒廃した状況である。今回の調査は、識名園復旧のために設けられた識名園環境整備委員会の要請により、中島、建物跡の発掘調査と併行して現状の地形実測調査を行なったものである。調査は伐開を済ました池周辺部を平板測量をして、周辺の密生林の部分はコンパスで補足測量を行なった。成果品として1/200平面実測図（下図）（等高線間隔50cm）を得た。なお育徳泉、橋、石垣の一部については修復前の状況の写真実測を行ない、1/50の各立面図を作成した。

（田中 哲雄）

